Green Map Harmony

vol.5

特定非営利活動法人
グリーンマップジャパン
Annual Report
from April 2010 to March 2011

GREEN MAP JAPAN

Green Recovery へ！

■ウェンディー・ブラウアー / グリーンマップシステム

福島の衝撃で、私達は改めて人々や地域、生き物への思いに強く結びつけられました。うち続く日本の不安定な状況に直面して、どうしたら元気を取り戻せるようにお手伝いをしたらよいでしょう？グリーンマップを通じた繋がりが、積極的に貢献できることを願っています。この災害は力強い気付きの第一歩です。全ての原発をやめ、効率的でクリーンな再生可能エネルギーを増やすことが、絶対に必要です。
「人々がリードすれば、指導者達はついていきます！」

■丸谷 博男 / せたがやグリーンマップ

地球が叫ぶ。
大地に衝撃が走り、大地が飛び上がる。
自然現象が創り出した新しい地図。
それが、大震災の結果だった。
生き残った人々は、その瓦礫を掘り起こし死骸と残骸を探し求め、鎮魂した。
生き残った人々は再び立ち上がり、人間の暮らしを求め、命を全うし始めた。また地図を描き始めた。

生きる事が命。生きる事が暮らし。
生きる事が人間の地図描き。

■右衛門佐 美佐子 / グリーンマップジャパン

地震が警告してくれた！
原発は人間の未来を蝕む！
- 無害化に 10 万年かかる廃棄物
- 世界平和を脅かす力の技術
- 差別の上に成り立つ原発労働

この制御不能の技術を捨て、
今、あらたな一歩を踏みだそう！
そして政治に力強く NO NUKE と声をあげよう！

■マルコ & シルヴィア / インドネシアグリーンマップ

私たちがBanda Acehの津波による災害後にグリーンマップを作ったのは、住民たちに地域の記憶を保存・共有させる手助けや、その記憶をもとに新たな人生を始めるためでした。
AcehグリーンマップはSylviaの生徒たちによる市全体を網羅する為のマップと市の北海岸沿いの地区と隣接地区であるAceh Besarを収録したマップです。
マップ作りは地域住民全員が共有できるその町の“郷土愛”や歴史・物語、自身の思い出等を込め、多くの共同作業を行い、マップを作る過程が持続可能な社会を作る話し合いの場になりました。

■ピーター・ヴァンデ・ルー / グリーンマップベルリン

この度の福島の大災害の結果、ドイツ政府は未来に向け、原発を捨て、再生可能エネルギーに焦点を当てていくことを決断しました。我が国の素早い反応が、重く悲しい衝撃を与えた福島のような恐ろしい事態を防ぐのに役立つことを願っています。
原発廃棄の動きに触発され、私はプロの地図製作者として全国の風力発電開始のアセスの仕事に参加しています。最近ベルリン北東部に風力のサイトを一つ加えることができました。未来のために再生可能エネルギーサイトを地図に付け加えられるよう、今こそグリーンマップを使う時です。

Contents…Green Map Harmony 05

1…愛知で「COP10 グリーンマッププロジェクト」
4…みんなでグリーンマップを作ろう！ in エコスタイルタウン
6…Green Map Network 交流トーク
7…マップメーカー登場！　グリーンマップ宇治
8…新マップ紹介　おだわらグリーンマップ
9…ただ今元気に活動中　にこぷん GM
10…事務局だより

COP10 グリーンマップ プロジェクト in 愛知

グリーンマップあいち：中川 恵子

きっかけ

昨年（2010 年）の春、10 月に名古屋で生物多様性条約第 10 回締約国会議（ＣＯＰ 10）が開催され、世界中から政府関係者も含めてたくさんの人たちが訪れるということを受け、グリーンマップあいちとＮＰＯ法人地域の未来・志援センターが中心になって「ＣＯＰ 10 グリーンマッププロジェクト」を立ち上げました。愛知万博以来、継続しているグリーンマップのネットワークをベースに、展示やフォーラムなど、万博のときの手法を活かせば、半年という短い準備期間でも、多くの人たちを巻き込み、生物多様性というテーマに関心を持ってもらえるだろうと考えたからです。

41 グループがグリーンマップを展示

ちょうどＣＢＣラジオが開局 60 周年事業のひとつとして、ラジオ番組と合わせた「ＣＢＣグリーンマップ」をウェブ上に立上げることになり、地元メディアとも連携してプロジェクトを進めることができたことも、大きな力になったと思います。

私たちが掲げたテーマは「暮らしの中の生物多様性」。それぞれの地域のグループに、会期中に展示するグリーンマップづくりを呼びかけ、また一般の人たちにも、身近でみつけた生物多様性を表現している写真とコメントを募集しました。当初は、市民の関心も今ひとつでしたが、名古屋で開催される重要テーマの国際会議に向けて、何か行動したいという人たちが動き始め、月 1 回の勉強会も兼ねた情報交流会に顔を出すメンバーも徐々に増えていきました。

2010 年 10 月 9 日 (土) から 24 日（日）には、地球市民交流センター（愛・地球博記念公園内）で「暮らしの中の生物多様性」グリーンマップ展を開催。愛知万博以来、グリーンマップを通してまちづくり活動をしている人たち、フェアトレードなど都市で環境活動を行っている若者たち、山間地で活動する人たちなど、テーマの違う幅広い分野、年代層がグリーンマップを作成し、約 40 グループがそれぞれの作成したグリーンマップを展示しました。また、個別にスポットで提供された情報も 300 以上集まり、それらの情報をもとに、Ａ１サイズの「暮らしの中の生物多様性グリーンマップ」（表面：日本語版、裏面：英語版）を作成し、国際会議の会期中のイベントや展示会場で来場者に配布することができました。

暮らしの中の生物多様性グリーンマップ展

暮らしの中の生物多様性 スポット情報

一般からたくさん寄せられた生物多様性を感じるスポット情報の中から投票で 100 選と各賞が選ばれました。

CBC 賞

愛知県稲沢市で古い着物を自分だけの新しい着物にするリメイク術を教えてくれる「時代屋」。

COP10 支援実行委員会事務局長賞

夏にはこの森に入るだけで気温が数度は下がって涼しい、街中の貴重な森。

NYCより ウエンディ
INDONESIAより マルコも来日！

ＣＯＰ 10 の会期終盤の土曜日、10 月 23 日には、グリーンマップ創設ディレクターのウエンディ・ブラウアー氏やインドネシアのマルコ・クスマウィジャヤ氏を招いてグリーンマップフォーラムを開催。世界のグリーンマップ事情やそのインパクトについてレクチャーしていただきました。また国内からも、グリーンマップジャパンの右衛門佐美佐子さん、横浜から中村利恵さん、宇治から田中裕子さん、東京から丸谷博男さんに参加していただき、久しぶりに全国ベースでの交流を深めることができました。ありがとうございました！

グリーンマップフォーラム

フォーラムには、約 80 名が参加。ウエンディは、世界のグリーンマップの事例や、オープングリーンマップについて紹介。

COP10 の開催に合わせて実施された <COP １０発表・交流事業 > 地球いきもの EXPO in モリコロパークのステージで、グリーンマップの活動報告イベント「グリーンマップトークセッション」が開催され、ウェンディと、マルコがゲスト出演しました。

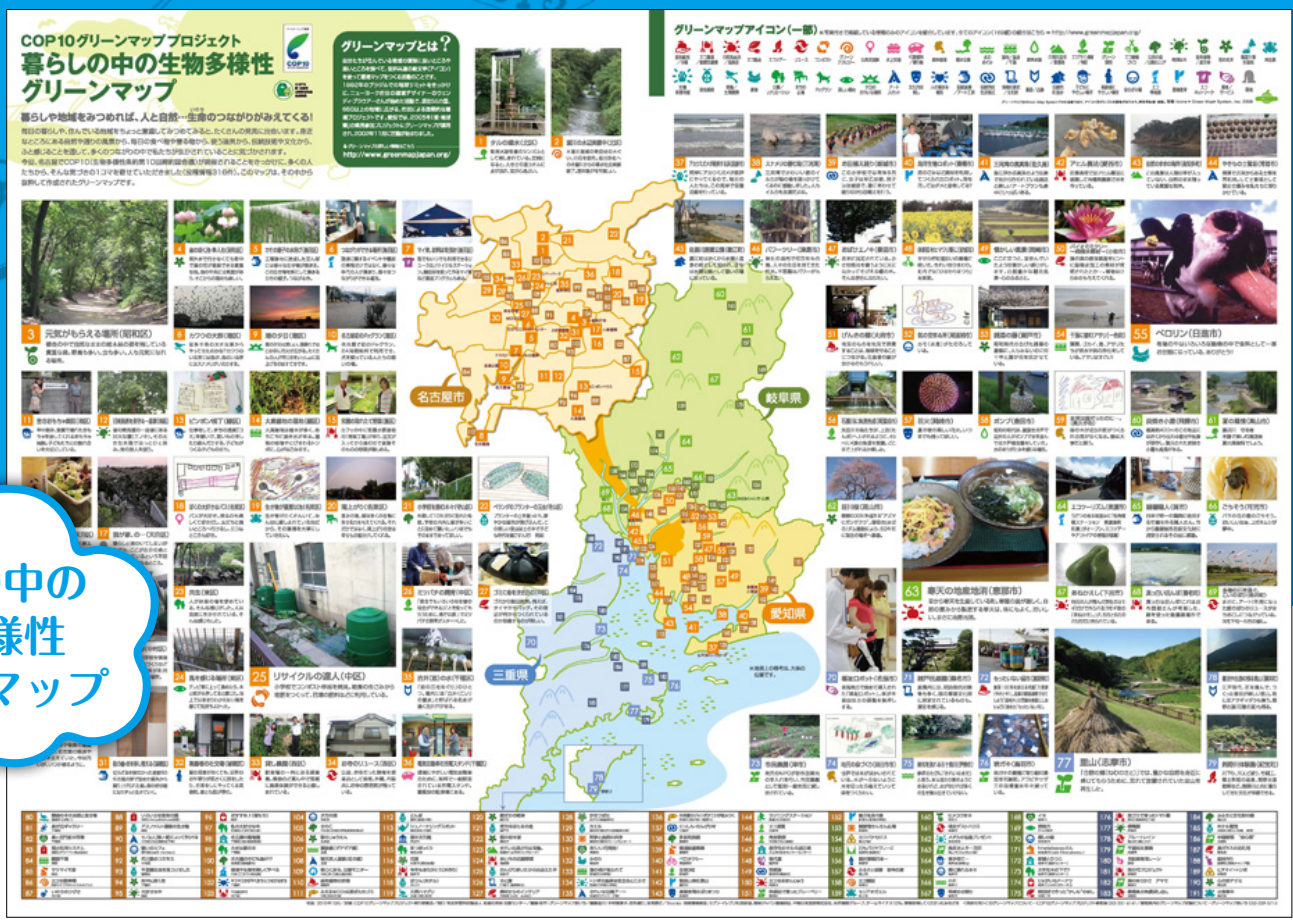
COP １０会場では大学生の有志団体「We love NAGOYA」のメンバーがグリーンマップのワークショップを開催。フォーラムで発表しました。

この機会に、ウエンディやマルコ、国内から集まったメンバーといっしょにミーティング。前段左から、萩原喜之、中川恵子、丸谷博男、後段左から中村利恵、マルコ・クスマウィジャヤ、ウエンディ・ブラウアー、右衛門佐美佐子、大矢美紀、田中裕子

「つながる」道具として

今回のように、まちレベルで何かアクションを起こそうというとき、グリーンマップは、「参加の道具」として有効です。たくさんの人が行動を起こすきっかけとして、グリーンマップに参加して、そこでつながる。今回も、たくさんの出会いや気づきが生まれました。その「つながり」を次にどう活かしていくか、が今後の課題です。

地図や冊子など制作物等のお問い合わせ先：
グリーンアップあいち
mail: info@gm-aichi.net



暮らしの中の
生物多様性
グリーンマップ

愛知・岐阜・三重の 3 県から寄せられた情報からグリーンマップ（A1 サイズ）を作成。
裏面は英語バージョンにして、会期中に外国人に配布。

Go! Green Map
～グリーンマップをつくろう！

COP10 をきっかけに、はじめてグリーンマップにチャンレジしようというと方たちのために、グリーンマップの作り方を簡単にまとめた冊子をつくりました。グリーンマップづくりのプロセスを、イラストを使ってわかりやすく解説。グリーンマップの特長やアイコンの使い方やリスト、また国内外のマップ事例もコンパクトにまとめてあります。冊子だけでなく、併せて映像とナレーションでまとめた DVD も作りました。

暮らしの中の生物多様性グリーンマップ集

2010 年 10 月 9 日（土）から 24 日（日）まで、地球市民交流センター（愛・地球博記念公園内）に展示されたグリーンマップを冊子にまとめました。都会に住む人、田舎に住む人、高校生の若者から年配の人たちまで幅広い層の約 40 のグループがグリーンマップを作成。自然エネルギー、いきもの、緑と歴史、商店街の中の生物多様性、公園、フェアトレード、名木、大学のキャンパスなど、それぞれが独自のテーマで個性豊かに作成され、マップづくりに参加したみなさんの気づきや想いがいっぱい込められたマップ集です。（A4 判、20 頁）

＊ご紹介した本はダウンロードできます。こちらからどうぞ→ www.gm-aichi.net

福岡で活動している方
のグリーンマップ

2010 年 10 月北九州市

みんなでグリーンマップを作ろう！ in エコスタイルタウン

NPO 法人里山を考える会 : 鳴海 勇太

GreenMapの創設者ウェンディ氏と、GreenMap JAPAN代表の右衛門佐氏が2010年10月に北九州市へこられました。
同月に開催されている「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」に招聘され来日される情報を得たことから、
スケジュールの前倒しを依頼しウェンディ氏と右衛門佐氏にお越しいただき、
北九州市民にGreenMapの普及、啓発を行っていただきました。

おもなスケジュール

〈2010 年〉

- **10/17 土…会場：エコスタイルタウン 2010** ※ 1
  イベント「みんなでグリーンマップを作ろう！ in エコスタイルタウン」
  ステージ出演「グリーンマップでつなげよう！ひろげよう！」 ～創設者ウェンディさんの講演～
- **10/18 日…市内視察**
- **10/19 月…会場：山田緑地**※ 2
  山田緑地見学　森の楽校 30 世紀の森づくりフォーラム　ウェンディさんとグリーンマップを作ろう！
  東田エコクラブ※ 3 にて交流会
- **10/20 火…北九州市環境ミュージアム**※ 4　環境ミュージアム見学　ウェンディさんのワークショップ

※ 1　**エコスタイルタウン 2010**
北九州市主催の西日本最大級の環境イベント。企業、大学、NPO、団体等が各々ブースを出し、環境への取り組みを紹介、ワークショップやエコ商品の販売などを行う。２日間開催され、来場者は 10 万人を超える。

※ 2　**山田緑地**
30 世紀のもりづくりをテーマにおよそ 150ha の広大な自然を 30 世紀まで今のままの状態で守っていこうとしている公園。小倉都心部から車で約 10 分とアクセスしやすく、散歩道や芝生の広場もあるので、さまざまな利用者がある。

※ 3　**東田エコクラブ**
NPO 法人里山を考える会が運営する木造作りのコミュニティハウス。中には NPO の他に、株式会社や任意団体など全部で 7 団体が事務所を置く。企業、行政、大学の方が集まり、様々な事業が生まれている。地域の人が集まり、ピザパーティや JAZZ コンサートを行うなどたくさんのコミュニティがある。

※ 4　**北九州市環境ミュージアム**
北九州市の環境を中心に紹介、ワークショップ、施設解説員による環境学習を実施。多くの市民ボランティアにも支えられ、北九州市の公害の歴史を語り、自分たちにできることを探す。その他にも、情報発信機能を備え、お客様それぞれのニーズに対応し伝える技術をもっている。

■エコスタイルタウン 2010

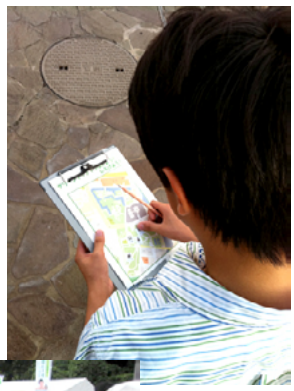
小倉城周辺で行うエコスタイルタウンは、交通機関の利便性もよく毎年多くの方が来場される西日本最大級の環境イベントです。その中で「みんなでグリーンマップを作ろう！ in エコスタイルタウン」を行いました。小倉城周辺には北九州市庁舎はもとより、大型商業施設、小学校、公園など多様な施設があり、このエリアを舞台にグリーンマップを作成しました。

発表の様子

作成したグリーンマップ

作成したマップを拡大した地図にまとめる

今回はウェンディ氏がこられるという事で、福岡県内においてグリーンマップで活躍している、北九州インタープリテーション研究会代表の原賀いずみさんと豊の国海幸山幸ネットの事務局の田中敦子さんに力をおかりしました。貴重な経験ができるということで、急な呼びかけにもかかわらず、15 人の参加者が集まりました。小学生、大学生、50 代の方など世代を超えてグリーンマップは指示されていることを実感し、普段交流が少ない世代同士で興味深いコミュニティが生まれています。
作成したグリーンマップを寄せ集め、拡大した地図にアイコンを落とし、エコスタイルタウンのステージにて、ウェンディ氏、右衛門佐氏の講演とともに発表しました。環境に興味のある人が集まるイベントなので、北九州市民にグリーンマップの主旨や概要を説明する良い機会になりました。参加した方は、普段歩き慣れている場所の中に新しい発見がたくさんあったようで、ステージでの発表は新鮮みがあり、観客も興味を持って聞いていました。


グリーンマップを作っているときの様子

■東田エコクラブにて交流会

3 日間にわたりグリーンマップの魅力を伝えて下さったウェンディ氏・右衛門佐氏にねぎらいの気持ちをこめて交流会を行いました。福岡県宗像市や行橋市、遠くは兵庫県からも参加があり、総勢 30 名になりました。
はじめに、ウェンディ氏と右衛門佐氏にグリーンマップの主旨・概要、世界の取り組み、日本の取り組みをお話しいただき、グリーンマップの理解を深めた後、グリーンマップから持続可能な社会についてみんなで考えました。
交流会では、それぞれが持ちよった日本料理を、ウェンディ氏に振る舞いました。短い時間でしたが、自分たちが作ったグリーンマップを見せ合ったり、ボディランゲージでコミュニケーションを取り合い、ウェンディ氏・右衛門佐氏、北九州のマップメーカーともに一同有意義な時間を過ごすことが出来たと感じました。

交流会の様子

■「世界のエコライフへの挑戦と市民活動」

ニューヨークとデンマークから

Green Map Network 交流トーク

---Wendy & Narumi in Kyoto

グリーンマップジャパン : 右衛門佐 美佐子

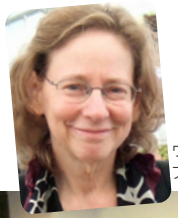
死者も多く出た昨年の夏の猛暑。京都の山々ではカシノナガキクイムシの被害でナラ枯れが無残な状態で進行する中、2010年10月20日、ハートピア京都で、グリーンマップ創設ディレクター、ウェンディ・ブラウワーとグリーンマップジャパンのネットワークメンバーであるデンマーク在住のプロダクトデザイナー、福田成美さんをゲストに、スライドショーと交流の夕べを企画した。
今回は、グリーンマップそのものからは少し離れ、生活の視点からニューヨークとコペンハーゲンの日常のエコな暮らしぶりや最近のユニークな市民活動などをレポートしていただき、京都市民と情報交換を行った。

●魅力的な「見える化」活動-ニューヨーク

「こんな事いいと思わない？」「やってみない?」「やっちゃおう！」と、ノリのいいのがアメリカ人。ニューヨーク市民のユニークな活動のキーワードは「活動を見える化」すること。いくつかの例を紹介しよう。地産地消を進めているあるグループは、今こそ都市に農業を持ち込み、都市の人に農業の知識を吹き込み、交流すべきとの主張から、市役所前の植え込みに食べられる植物を植え、路上でみんなで味わうというパフォーマンスを行う。エコ建築を推奨しているグループは市内の学校に呼びかけ、学校の屋上緑化コンテストを行い、生徒にガーデニングやグリーンルーフを体験させている。部屋の中やちょっとしたベランダで野菜を作るキット・道具を紹介し、作り方を教えてくれるブティック。週末には郊外で農業を楽しむハーフ・ファーマーが今、オシャレな暮らし方。コンポストを推進するための個人経営のスタンドショップや公園の葉っぱで迷路を造り、たどり着いた先が自転車など、いろいろなものをただで修理してくれる市民グループのブースに導かれていたり…とにかく「何やってるんだろう？」「この店は何？」と興味をそそる見せ方がうまい。時にはアートの力を借りて、インターネットの即戦力とダイナミックさを利用し、集まって何かに取り組むことをみんなで楽しんでいるように見える。「いいことはじゃんじゃんやろうよ！」という態度はグリーンマップ運動の真髄だし、こんなところが今や世界中で710都市以上を巻き込んだ原動力になっているのだろう。

●緻密な制度設計と公平性-コペンハーゲン

一方、環境先進都市デンマークは古くは1670年代から最初の都市計画がなされ、戦後、学識経験者や実務経験者により、1947年にはいち早く公共交通と市街地の機能的繋がりを考えたフィンガープランが作られたそうだ。1980年代には、住環境の向上を目指した都市再開発が盛んに行われ、1990年代になるとそのウェイトは持続可能な都市作りへと舵を取る。市民と専門家、行政が一体となったアジェンダ作りや制度改革はいかにも高福祉の北欧らしい。民主的な公平性を基盤に、ここでは食べ物、農業資源、エネルギーと気候、グローバル経済、資源経済、交通体系と情報技術、環境、戦争と平和、健康と病気などの様々な視点から、市民生活が考えられていることが分かる。マクロなシステムからミクロな個々人の生活まで視野に入れたまちづくりや建物、公園、機器や道具はエコな工夫がちりばめられていると同時に、全体との整合性がよく考えられており、行き当たりばったりの政策ではない。
持続可能な生活に向かう、エネルギッシュなニューヨークと緻密に考えられたコペンハーゲンの二つの対照的な都市の様相を見ることができた交流トークであった。


ウェンディ
ブラウワー

福田成美さん

講演会のひとコマ

Green Map Uji vers.1
2008 年 3 月発行

■地元と学生をつなぐエココミュニケーション
「グリーンマップ宇治」の活動

宇治川観光通船にて

マップメーカー登場！

グリーンマップ宇治：田中 裕子

京都市の南に接する宇治茶と源氏物語と世界遺産「平等院」の街、宇治市。1052年、藤原頼通が寺院とした平等院は清らかな宇治川の畔にあり、小津安二郎の映画にでも出てきそうな昭和30年代の観光地のようなのんびりした趣きがある。数々の歴史の舞台に登場しながら、京都から『わずかに』離れているためか、観光客も宇治まではなかなか足を伸ばさない。

宇治橋通り商店街を歩くと、お茶屋さんが並び、懐かしい雰囲気の店や、夏になると宇治川の鵜飼など、昔ながらの暮らしを守る人々も多い。そんな宇治も近年、京滋バイパスが通り、田んぼがマンションになり新しい住人が増えた。梅雨時にはうるさい程だったカエルの声が聞こえなくなり、ツバメの数もめっきり減った。

●京都文教大との協同活動

2007年、宇治橋通り商店街の真ん中に京都文教大学のサテライトキャンパスが開設された。地域社会から何かを学び取って欲しいという大学の教育方針と学生・地元の人の意欲がマップ作りにうまく結びついた。2007年度の文科省特色GP学生プロジェクト（特色GP）に採択され「現場主義教育充実のための教育実践～地域と結ぶフィールドワーク教育～」プロジェクトのひとつとして、学生6名、大学職員2名、地域住民1名の計9名が「グリーンマップ宇治」の制作に取りかかった。学生達は、取組内容説明、中間報告、完成報告、プロジェクト全体のプレゼンテーションなどをこなし、この助成で予算も与えられので、グリーンマップ登録費用や印刷資金を得ることができた。

●マップのテーマ

ちょうど源氏物語千年紀の年で宇治十帖にまつわる催しが多くあり、源氏物語のテーマや、琵琶湖から流れる唯一の川、宇治川の恩恵を受けた豊かな自然や近年の治水や汚染などの問題をマップにするかなど、テーマは様々あったが、あまりカテゴリーを限定せずに地元とつながりたいと『エココミュニケーション』をコンセプトに決めた。いわゆる普通の観光マップにはしたくなかったので、裏面は学生自身が地元の関係者や達人に取材してそれを記事にして、news letterのような体裁にしようということになった。町あるきにより地元の野鳥グループや穴場の古刹、伝統ある鵜飼を守る人達、癒しのお気に入りの路を発見できたと、関わったメンバーみんなが言う。

●今後の活動-ゆる～くてもいい

学生が中心のグループは、卒業=メンバーの減少という現実に直面する。しかし、ここでグリーンマップを経験した学生が、自身の地元や別の町で新たにグリーンマップ作りを始める可能性があり、長い目で見ればいい機会作りになる。学生時代のひとときを過ごした地域が地元の人とのふれあいで、どんな土地なのか深く知ることができる上、想い出作りにも一役買う。

私立大学としては、全国で唯一文化人類学科のある大学だが、グリーンマップを作った学生の中には、町歩きで知り合った宇治川の船頭さん（鵜匠さん）との出会いと聞き語りを卒論テーマした学生もいる。

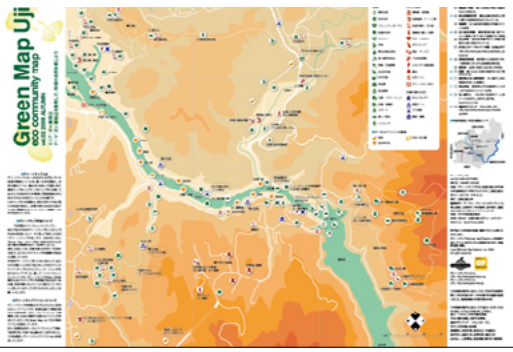
メンバーで大学職員の山中さんは「以前の町歩きで発見した無数に点在する宇治陵をいつかマップにしたい」と語り、同じくメンバーで大学職員、全国でも珍しい女性鵜匠さんでもある江﨑さんは「ゆる～いやり方でも宇治のグリーンマップらしい活動を続けて行きたい」と話している。

今年度は5月に「楽しいグリーンマップ集めてみました」というグリーンマップの展示をサテライトキャンパスで行い、6月はあいにく雨で中止になったが「ホタルを見に志津川へ！」、7月は「白川の野草探検」、8月は「ツバメの塒（ねぐら）観察に伏見河川敷へ！」など計画中。京都、滋賀、大阪、神戸などのグリーンマップともゆる～く繋がり、エココミュニティを作っていきたい。

京都文教大フィールドリサーチオフィスにて
左から二人目が江﨑さん、山中さん、牧くん、今井くん

Green Map Uji vers.2　2008 年 11 月発行

＊宇治のグリーンマップは、2008年3月発行のvers.1宇治橋を中心としたエリアと2008年11月発行のvers.2天ヶ瀬周辺エリアを作成した。マップの詳細は「ハーモニー」の3号と4号に掲載。GMJウェブサイトからダウンロード可。



■水と親しむ

「おだわらグリーンマップ」

富士見小学校
でのフィールドワーク

新マップ紹介

おだわらグリーンマップ：村越 寿代

●制作背景-地域情報のプラットホーム作り

神奈川県小田原市は、かつては城下町として栄え、山、川、海、水田や畑などの農地、里山、歴史的な街道や街並み、景観などあらゆる環境資源に恵まれた都市です。地域情報共有のプラットホーム作りに、当地では近年、官民協働での環境（エコ）シティ構想が打ち出され、このマップは小田原市環境再生プロジェクト実証（モデル）事業の一環として制作されました。地元の環境団体、小学校、環境政策課などが協力し、様々な市民が現場で直面している課題に知恵を出し合い、取り組みを持続的に応援していけるような方法を模索し、たどり着いたのがグリーンマップでした。

●作成-「緑の分権改革」事業として

まず、多くの方にグリーンマップの趣旨を知っていただくことから始まりました。しかし、あらゆることが初めてで、何をどこから手を付けていいものやら悩みました。そこでコアスタッフを組織し、水問題に造詣の深い先生、デザイン学生、小学校での総合学習自然観察会で、興味を持ってくださった地元のお母様などにアドヴァイスや意見を頂きながら協力体制を作りました。

しばらくして、総務省の緑の分権改革の調査事業として「おだわらグリーンマップ」の制作が市からも正式に認められ、会議室の利用、地図の下絵の提供、市内環境関連団体へのアンケートの作成や協力の呼びかけを行うことができ、弾みが付きました。

一番、悩んだのは、印刷でした。グリーンマップ本部のスタイルがインターネット上で、地図情報を公開し、誰でも広く情報を手に取れるようにということを念頭にシフトしているのはよくわかっていました。しかし、自然を大切にすることの背後には、物を大事にする精神と、自然から様々な知恵を学ぶことができることを見失わない姿勢が大事だと思い、まずは紙の地図の発行を決め、宇宙の太陽電池パネルにつながる科学の折り方―ミウラ折りを採用することにしました。その一方で、現在、市と会で連携して、ホームページの作成も企画しています。

●発見-街を見る目が変わる

制作過程では、掲載ポイントを選択することの難しさを感じました。「活動を紹介する象徴的な場所はどこだろう？」「ここを紹介するなら、あそこも外せないよね」など、掲載スポットをいろいろ話し合い、新たな視点で考える過程に、グリーンマップ作成の面白さと醍醐味があるのだな、と感じました。

マップは「水と親しむ」小田原をテーマに、酒匂川をはじめとする水のめぐみをテーマに、水と生活、森林と水、水と生物、などについて解説し、「水と親しむおだわら」をアピール。現在では貴重な生物となったメダカの棲息する川や保護団体のために「メダカ」のオリジナルアイコンもデザインしました。新しい道ができたとき、新しいアートスポットができたとき、名木に出会ったとき、市内で新しい「なにか」が動き出したとき。グリーンマップ作成に携わっていると「街を見る目が変わる」と気付かされました。

●今後の展開

第1弾マップの作成は、まだまだ種まきの段階です。今回の東日本大地震の影響で、グリーンマップの初披露のイベントは中止になりましたが、タウンニュースやインターネット上の新聞で、少しずつ取り上げられ、市内の環境関連団体や、ギャラリー、地元の本屋さんでも取扱い希望の声をいただき始めました。市民委員の仲間と企画し、様々な方の応援を頂きながら形作ってきた活動でしたが、今後は、第一弾の製作に関わった方々の有志で任意団体を結成し、環境（エコ）シティにふさわしい、見ていて、楽しくなるようなグリーンマップの製作を行っていきたいと考えています。地域の商店街の方にも参加を呼びかけています。

ワークショップの風景

市内での完成品披露のイベントに向け、ミウラ折りのあひこゆみ様より応援にTシャツとバッグも寄贈していただいた。

-2011 年 3 月 12 日発行
- 企画：小田原市環境再生プロジェクト検討委員会（H21,22 年度）・委員 村越寿代
任意団体おだわらグリーンマップ・事務局長 森谷昭一、会長 高瀬和昌／小田原市環境政策課

GREEN MAP

私たちは、女子美術大学に通う学生です。「コミュニケーションの力で世界をつなぐ」を目標に2008年から活動を始めました。子どもが好き、自然が好き、様々なことに興味を持ったメンバーが集まっています。人の感情に着目した地図を制作・発信しています。

私たちの『GM』

GM は、女子美のある相模原市を中心に活動を実施。地域の小学生を対象に、わくわくできるグリーンマップを展開。「海賊版グリーンマップ」など、ストーリー性をプラス！お宝＝発見としている。

1. 散策

散策のルールは五感を意識すること！地域を五感を使って観察。五感を研ぎ澄ますことで、道端に咲いている花・鳥の声など、身近なものの魅力や大切さを改めて発見・実感している。

2. 発見

地域の発見をより自分のこととして考えてもらう工夫のため、気持ちに着目した「感情アイコン」を使用。「おどろき」「うれしい」「おきにいり」「きれい」「こわい」「かなしい」の６種類を考案。

3. 地図作り

子どもたちの感性を尊重し、散策中の写真や折り紙等を使い、自由に制作。地図＝作品とし、散策中に発見したもの・そのときの気持ちをかたちに起こしている。

4. 共有

地図を作るだけでなく、発見のその後を考える「未来予想図」や、発見したときのことを劇で表現する等、様々な方法で散策を共有。発見したことを伝える方法を子どもが自分で考え実行している。

女子美術大学
グリーンマップ『GM』

神奈川県相模原市
mail:gamushara1224@gmail.com
http://gamushara1224.web.fc2.com/

FaceBook にグリーンマップジャパンのページができました。

日本全国にいるマップメーカーの情報交換のプラットフォームとなるよう、フェースブックにグリーンマップページを作りました。あなたのグリーンマップやマップメーカーに関する情報をどんどん投稿してください。ニューヨーク本部にいる日本人スタッフも参加しています。

www.facebook.com/greenmapjapan

■事務局便り

● Newcomers, Welcome! 2010 年度（2010.4 ～ 2011.3）参加登録したところです。

地域など	グループなど	テーマなど
岐阜県多治見市	たじみ百景クラブ	残したい自然や風景
愛知県大府市		高速道路建設と住宅開発
島根県松江市	松江工業高等専門学校	治水・街並み面から松江の魅力を考える
岐阜県大垣市	名古屋大学大学院環境学研究科	子どもや家族に優しい持続可能なコミュニティ

●第 19 回全国ボランティアフェスティバルひろしまに参加

2010 年 9 月 26 日、広島市中国新聞ビルで開催されたボランティアフェスティバル「マップづくりでまちおこし～携帯電話で夢さがし～」の分科会でグリーンマップを紹介しました。国内外の興味深いグリーンマップ紹介し、そのユニークな点、国際性、コンピュータ利用の仕方などを発表し、午後からは広島市原爆記念公園付近でワークショップを行いました。コンピュータには余り馴染みのない比較的年輩の参加者が多かったのですが、オープングリーンマップやウェブサイト上の情報作りは、若い人の力を借りてこれから利用できるとの感触を掴んだようです。

ワークショップ会場の広島市原爆記念公園

●事務局からのお知らせ

グリーンマップニューヨーク本部が作成したオープン・グリーンマップのキャッチコピーが「Think Global! Map Social!」になり、日本語のコピーは「地球を見つめ、社会を描く！」としました。各地で制作される紙のマップ部門は「「Think Global! Map Local!」＝「地球を見つめ、地域を描く！」となっています。

●事務局からのお願い

1. グリーンマップの登録は本部ウェブサイトから行って下さい。年会費の額は本部ウェブサイトにて自動計算され、登録日が 1 年経つと自動的に会費納入のお願いメールが来ます。本部サイトからクレジット決済で簡単に支払うことができます。ご協力よろしくお願いします。
2. 本部ウェブサイトにて登録したら、まめに自分のグループの進捗状況やニュースを入力し、世界に向けて発信して下さい。
3. 紙のマップが完成しましたら、事務局に 30 部ほど送ってください。広報に使用する他、ニューヨーク本部にも送付します。
4. グリーンマップジャパンウェブの「資料」コーナーにも、日本語の本やダウンロードできる資料が沢山掲載してあります。ご利用ください。

■ Green Recovery に関係のあるグリーンマップ。この他、インドネシア・アチェのマップなども検索してみてください。

■パワーグリーンマップ（ニューヨーク）
このマップの目標は、エネルギーの未来を考えること。積極的に日々の省エネに取り組んでもらい、浪費を減らし、再生可能エネルギー、分散型テクノロジーを駆使し、健康、気候そして経済への影 響を緩和する第一歩を踏み出すための水先案内をすることです。エネルギー問題の「影の部分」「明るい部分」「未来への 投資」の 3 種類の地図を収録し、現状や先端的な取り組みが立体的に理解できます。
-2005 年発行
http://www.greenmap.org/greenhouse/en/nyc

■広島エコピースマップ
子ども達とお年寄り、現代と過去、新旧のものなど、様々な人や物を通して被爆都市「ひろしまをつなぐ」マップです。第 1 版は、歴史編と現代編がレイヤーになっており、重ねて比較すると戦前と戦後の街の変化が分かります。
-2004 年 1 月 21 日発行
- 企画・制作：広島大学大学院工学研究科建築意匠学研究室 + 広大附属小学校の生徒たち
http://home.hiroshima-u.ac.jp/ecopeace/

■編集後記
大震災後のハーモニーの編集作業は、力が抜けてなかなか進まず、遅れてしまいました。何とかこれを機に、真に安全な未来を迎える復興を望む私達の希望を表紙にたくしました。本部の Wendy を始め、世界中の多くのマップメーカーからも励ましのメールを頂き、改めて世界の心ある人々と繋がっているという実感を持てました。

● Green Map Harmony 第 5 号
● 発行日：2011 年 7 月 20 日
● 企画・発行：特定非営利活動法人 グリーンマップジャパン
● 編集責任者：右衛門佐美佐子
● 編集：田中裕子、中川恵子、中村利恵
● デザイン：田中裕子、石川理紗

GREEN MAP JAPAN

■グリーンマップジャパン 事務局
〒 606-8225 京都市左京区田中門前町 90
tel: 075-712-8834 fax: 075-702-6223
e-mail: info@greenmap.jp
URL: greenmap.jp

グリーンマップは Green Map System ™の商標であり、アイコン及びロゴには版権があります。禁無断転載・複製。
Icons © Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved.
ニューヨーク本部 URL: greenmap.org